

授業科目名	地域医療体験実習Ⅱ	担当教員	教授 佐野 千晶 他
開講年次・学期	1年～6年 通年 必修科目時間外	必修/選択	自由
開講形態	実習	時間数/単位数	1単位
<b>目的</b>			
<p>地域医療の現状ならびに課題を理解し、その地域に必要な医療・保健・介護・福祉について学び、医師として地域医療に貢献するための能力を獲得する。実際に医療現場を経験することにより、プライマリ・ケアや地域包括ケアの重要性を理解する。また、島根県の地域医療の魅力や課題を学ぶ。（旧名フレキシブル地域医療実習）</p> <p>&lt;ディプロマポリシーとの関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決・自己研鑽能力 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。</li> <li>・地域医療への志向力 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。</li> </ul>			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地域でのプライマリ・ケアの実際を体験し、今後に必要な学びを主体的に考察する。</li> <li>2.医療・保健・福祉・介護の関係者や地域住民との対話や話し合いを行い、多職種連携による地域包括ケアについて理解する。</li> <li>3.地域の在宅医療、救急医療、災害医療について体験する。</li> <li>4.へき地・中山間地の医療、離島医療を体験する。</li> </ol>			
<b>概要</b>			
<p>島根県の医療施設および全国の地域医療、災害医療、へき地・中山間地の医療、離島医療の現場で、地域医療に関連した参加型実習を行う。本実習では、本学学生自らが1～数日間の実習内容を立案・計画し、地域医療支援学講座スタッフと相談し、自主的に実施するものである。実習終了時意見交換会を行うことにより参加者へのフィードバックを行い、これから取り組むべき課題を共有する。</p>			
<b>対象</b>			
<p>医学部医学科学生で、本科履修の認定を希望するもの。 科目履修の認定は在学期間を通じ1回のみとする。</p> <p>なお、一般入試県内定着枠、地域枠推薦入試、緊急医師確保対策枠推薦入試により入学した学生（COC人材育成コース対象者）は、在学中に本科目または地域医療体験実習Ⅰのいずれかを必ず修得するものとする。</p>			
<b>評価の方法</b>			
実習レポート、実習受け入れ施設担当者評価表及び「フレキシブル実習報告会」参加・発表			
<b>実習日程・内容</b>			
<p>実習日程及び内容は、地域医療支援学講座スタッフと相談の上、実習希望先と調整を行う。希望者は事前に地域医療支援学講座に相談し実習計画書を提出する。地域医療支援学講座では計画書採択について検討する。これまで、「診療所実習」「災害地視察」「救急当直体験」「女性医師密着型実習」「在宅医療体験」「保健所体験」「精神病院実習」等を行っている。</p>			
<b>申込等</b>			
<p>島根大学医学部地域医療支援学講座へ申し込む。 実習場所により規定の旅費・宿泊費一部が実習後支給される。食費等一部実費負担。</p>			

## コア・カリとの関連

### B-1-7) 地域医療・地域保健

ねらい：地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。

学修目標：

- ①地域社会（へき地・離島を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ②医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。
- ③地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ④かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ⑤地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。

### G-4-3) 地域医療実習

ねらい：地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶ。